

5年A漢字「均」指導対象漢字語候補検討資料

a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	u
	読み	表記	意味	類義・対義・関連の語	語構成	品詞	語種	国字研プリント	学習論語イ一覧表	批判読み教育基本語イ	児言研教育基本語イ	阪本語イ表	幼児言語	光村	教出	東書	学図	三省堂	三省堂例解小学国語辞典	常用漢字表語例欄
	基本語イ (jkl 欄 該当語)	△表外訓			並列語(=)									★初出本文 黒字巻末付表など／●上学年					★重要語句	
1	きんいつ	均一	A		均＝一	名	漢語	百円均一			中B	中学1		●均一		均一	百円均一		均一	均一
2	きんこう	均衡	B	≒バランス	均＝衡	名	漢語				中B	中学1							均衡	均衡
3	きんしつ	均質	A	≒等質	均→質	名	漢語									均質		均質		
4	きんせい	均整	A		均＝整	名	漢語					中学2				均整			均整	
5	きんとう	均等	A	≒平等	均＝等	名・形動	漢語	均等		中1年	中A	中学2		均等	均等	均等	★均等	均等	均等	均等
6	きんぶん	均分	A	≒等分	均→分	名・ス他	漢語					中学4								
7	へいきん	平均	AB	≒平衡	平＝均	名・ス自他	漢語	平均			小B	小高1		★平均	★全国平均	★平均	平均		★平均	平均
8	へいきんだい	平均台	B			名	漢語					小高3							平均台	
9	へいきんち	平均値	A			名	漢語								●平均値					
10	へいきんてん	平均点	A			名	漢語	平均点				小高3×						平均点	平均点	
11	ならし	△均し	A			名	和語					小高1								
12	ならす	△均す	A			五他	和語					小高1							ならす	
13	ひとしい	△均しい (等しい)	A			形	和語					小高1							★等しい	

△のコトバは指導の対象外 意味区分 A《ひとしい》 B《バランス》

表のみかた

- a 50音順整理番号 訓読みの語と、音読みの語を区別し、原則として50音順にならべたが、合成語や連語は、もとの語とならべた。
- b 読み 候補漢字語の読みをひらがなでしめし「見出し語」とした。
- c 表記 候補漢字語の一般的な表記をしめした。
△は常用漢字表の「表外音訓」。×は「表外字」。
- d 意味 候補漢字語のおおまかな意味の低位分類を2区分した。複数の区分にわたる語や2区分にふくまれないものは「*」とした。
- e 類義・対義・関連の語 ≒類義の語、≠対義の語、⊃上位の語、⊂下位に分類される語。

f 語構成 二字漢語の構成を記号でしめた。表作成者の見解で、並列語を「＝」(類義のならび)「ー」(対義のならび)とした。また、修飾関係の語を「→」、補足関係・認定関係の語を「←」とした。

g 品詞 『岩波国語辞典』第4版の品詞分類を用いた。

h 語種 『新潮国語辞典』第2版の認定によった。

i 国字研プリント 漢字指導法研究会の会員著作の『漢字プリント』(ルック刊,2006年)でつかわれている語を赤字でしめた。

j 学習論理語イ
一覧表 武部優子(漢字指導法研究会研究参与,啓明学園初等学校元校長)が1962年に作成した「学習論理語イ一覧表」に掲載されている語のうち「均」をふくむものはない。

k 批判読み
教育基本語イ 見城慶和(漢字指導法研究会研究参与,元委員長)が1963年に作成した「教育基本語イ」のうち「均」をふくむ語を赤字でしめた。

中1年 中学校1年

l 児言研
教育基本語イ 児童言語研究会が1962年に作成した「児言研国語科教育基本語イ・第一次試案」に掲載されている語のうち「均」をふくむ語を赤字でしめた。小中学生が「所有していることによつて、よりよく思考や認識を活動させる表現・通達することができる語を」えらび、「日常の使用で自然におぼえられる語い」等にはぶき、「系統的・体系的な国語教育が責任もって教えなければならない重要な語を精選する」という観点から、総語数1955語をえらんでいる。それぞれの語を小学校と中学校のふたつの指導段階にわけ、それをさらにA(特に大切な語い)とB(A語に続くもの)のふたつにわけている。大久保忠利・松山市造・近藤徹編『言語要素指導』国語教育の体系化1(明治図書,1962年)所収。

m 阪本語イ表 阪本一郎『教育基本語彙』(牧書店,1958年)および阪本一郎『新教育基本語彙』(学芸図書,1984年)に掲載されている語である。「義務教育の9年間に、国語の単語を、どのような範囲で、どのような順序で学習させるのがよいかの基準を示した」としている。総語数は、前者が22500語(公称)、後者が19271語で、小低(小学校第1～第3学年)、小高(小学校第4～第6学年)、中学(中学校)の3段階にわけ、さらにそれらに「1～4」の優先順位をつけている。前者にあった語のうち後者に掲載されていないものを「×」、とした。なお、前者の作成には、15人程度の国語教育の実践者、研究者がたずさわっているが、そのうちのひとりが、のちに1980年代になって児童言語研究会委員長をつとめた松山市造(元・学習院初等科)で、松山市造は、1962年「l 児言研 教育基本語イ」の作成にも参画し、このときの経験を生かしたという。さらに1980年代後期には、国字研例会にもたびたび出席し、漢字精選と語イ表作成において「内言と表現通達に、それがなくてはかなわぬ語を選ぶこと」の重要性を指摘している。

n 幼児の使用頻度 1977年のある一日(約12～14時間)のなかで、4人の6才児がそれぞれの日常生活場面・遊び場面で発話した語を収集したもの。「均」をふくむ語の発語は、ない。大久保愛・川又瑠璃子「就学前幼児の語彙－4児による日常生活語の実態－」『研究報告集3』(国立国語研究所報告71,秀英出版,1982年)による。

opqrs 光村(光村図書出版)、教出(教育出版)、東書(東京書籍)、学図(学校図書)、三省堂の各社2015年版の該当学年教科書に掲載されている語のうち、本文が★で、巻末一覧表にあるものを無印でしめた。また、上学年で提出されているおもな語を●あるいは○数字でしめた。

t 三省堂例解小学
国語辞典 『三省堂例解小学国語辞典』(第6版)の見出し語にかかげられているものをしめた。そのうち同辞典編集者が「重要語句」と位置づけている語を本検討資料では、★でしめた。

u 常用漢字表
語例欄 『常用漢字表』(2010年)の語例欄にかかげられている語をしめた。